

設問

考えさせる質問6つ

[問い1]

- (1) 新しいことにチャレンジとは、どのようなことになるのでしょうか？
- (2) 一人ぼっちであるという状況を内田さんはどのように感じていますか？
- (3) 友達との話が合わないということに関してどのように思われますか？
- (4) 社会との接点とは内田さんにとってどのようなことですか？
- (5) 内田さんにとってフランクとはどのように感じられていますか？
- (6) 専業主婦を今までさせてきて、どう感じておられますか？

[問い2]

事例IのCCt10 (相応しい・相応しくない) 良かった点

理由: (良) 相談者が感じている不安という感情について傾聴を行い、フランクという相談者の思いを聴くことができ、信頼関係の構築が進んでいた。

事例IIのCCt11 (相応しい・相応しくない) 悪かった点

理由: (悪) 相談者のフランクと社会との接点をどのように促しているか、感情も含めて相談者へ問いかけることが十分にできなかったという点。

[問い3] (C) 視点の問題

相談者は銀行での仕事を「こんなものかな」と認識しており、これまでの経験・スキルについての自己理解不足が考えられる。また、学生時代の兼職活動の話では「特にしたい仕事も無かった」、夫に仕事をしなくてもよいと伝えられた際は、「嬉しかった」との発言から、仕事をする意義についての理解不足があると考えられる。

[問い4] 今後の展開

相談者の新しいことにチャレンジできるのかという感情を丁寧に傾聴し、冷静に今後のキャリアを考えられるよう促す。その上で、一人ぼっちである状況に対する相談者の思いと社会との接点を持つ意味、友達との話が合わないということへの重要性等を明確にし、仕事をする意義の整理を行い、その理解を促す。また、銀行での仕事と専業主婦の経験の相脚しを支援し、これまでの経験・スキルの理解を促す。これらにより、相談者が主体的に今後のキャリアを意思決定ができるよう支援する。